

令和3年度高砂市環境保全協議会会議報告

日 時 令和3年11月8日（月）
午後14時00分から15時30分まで

場 所 ユーアイ帆っとセンター 1階交流スペース1、2、3

出席者 別紙委員名簿のとおり（出席者37名、欠席者5名）
協議会設置要綱第6条第2項により会議成立（過半数）

会議内容

1 あいさつ

2 報告事項

（1）会長の選出について

会長の立候補、推薦がなかったため、事務局案により高砂市連合自治会の田中清之委員を会長に選任。その後、田中会長よりあいさつがあった。

（2）委員の変更について

環境政策課係長が、前回の書面会議から変更のあった委員を【資料1】環境保全協議会委員名簿により報告した。

- 市民代表6件
- 事業者代表5件
- 県職員2件
- 市職員1件

（3）環境保全協定の履行状況について

環境政策課係長が、環境保全協定の履行状況について、【資料4】により説明した。

（4）第2次高砂市環境基本計画の改訂について

環境政策課主幹が、第2次高砂市環境基本計画の基本目標、基本目標達成のための取り組み等について説明後、資料「第2次高砂市環境基本計画（改訂版）（骨子案）」により、計画改訂の方向性について説明。

<質疑応答>

【岩見明委員（高砂市議会建設環境経済常任委員会副委員長）】

ゼロカーボンに向けて、企業・市民・市役所それぞれのできることにについて、分野ごとに目標値を明確にする必要があるのではないかと。また、何をすれば温室効果ガス

排出量を2030年度に46%削減、2050年にゼロカーボンになるかロードマップで示すべきではないか。

【環境政策課主幹】

地球環境について、大きな目標・方向性については環境基本計画で掲げるが、ロードマップ等のより具体的な目標については地球温暖化対策実行計画の中で、市民、事業者アンケート等で意見を聞きながら掲げる予定である。

【生活環境部長】

来年、地球温暖化対策実行計画の見直しの中で、こういう施策をすれば削減できるというようなことを、データを検討しながら計算して積み上げていく予定である。温室効果ガス排出量を2030年度に46%削減、2050年にゼロカーボンを達成するために、高砂市でどういう施策をやっていくのかをそこで具体的に示していきたい。なお、市役所として取り組むことは来年示すことはできるが、事業者・市民と一緒にやっていくことはここで意見を聞いて積み上げていきたい。

【田中清之会長（高砂市連合自治会会計）】

環境保全協定書にゼロカーボンのことは示されていないが、今後示す予定はあるのか。

【環境政策課主幹】

環境保全協定書の主な目的は、排ガス、排水、騒音、振動等の公害について協定を結び、法律より厳しい数値で管理するようにするものである。現時点では、地球環境に関する目標値を盛り込む予定はない。なお、公害防止協定書が環境保全協定書になった時に、各企業の取り組みを提出してもらい公表することになっているので、その中で取り組みを示しているものもある。

(5) エコクリーンピアはりま（東播臨海広域クリーンセンター）について

広域ごみ処理施設建設推進室主幹が、資料「東播臨海広域市町村圏における広域ごみ処理施設整備・運営事業」により、施設の建設の状況、事業の概要、試運転について説明があった。

3 その他

環境政策課係長が、資料「ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の徹底について（通知）」により報告した。